

風の輪



生命の源びわ湖

目の前にひろがる湖水をながめ、波の音を聞くともなしに聞いているといつしか心が落ち着いていく。それは私たちの生命の起源が、水のなかにあるためか。はるか太古の記憶に導かれ、人は水辺に惹かれるのだろうか。

びわ湖は日本で最大の面積と貯水量をもつ湖であり、およそ4百万年前にできたといわれている。10万年以上も前にできた「古代湖」と呼ばれる湖は世界で20ほどだが、びわ湖はそのなかでも4番目ぐらいの歴史を誇る。魚類や湖底に棲む底生生物など多くの固有種が現存している。そしてその水は瀬田川から宇治川を経て淀川へと流れ、淀川流域の上水道として、私たちの生活とは切っても切り離せない。まさに命の湖でもある。

素量が増えるのだという。

洪水防御の工事、びわ湖周辺に点在した内湖の干拓、高度経済成長期以降の排水汚染他、種々の事由により、びわ湖の水質低下は顕著である。合成洗剤に含まれるリン等による過剰な富栄養化は、植物性プランクトンが大量発生した「淡水赤潮」をもたらす。温暖化により雪が積もらなくなると、湖に流れる酸素が減り、生物が生きづらくなる。外来種生物の繁殖は固有種生物の絶滅を意味する。

滋賀県はびわ湖を「母なる湖」と呼び、びわ湖を守るために独自のルールを決めてきた。リンを含まない石鹸の使用は有名である。

私たちの生活は決して、自然界と離れたところで営まれてはいない。二酸化炭素の削減が温暖化防止につながるように、「本当に必要なもの」を見極めることが求められているのかもしれない。環境を汚染しないことはびわ湖を守ることに、ひいては生命を守ることにつながるのだ。【榎本】